

令和3年度特別入試（推薦入試Ⅰ）－理学療法学専攻・作業療法学専攻－

出題意図

「問題1」

提示された表から、雇用されている障がい者の数の年次推移をみると、1980年以降増加傾向にあり、2019年では4倍以上に増加している。この背景には、企業や社会の障がい者雇用に対する意識の高まりや、障がい者の職業訓練や就業支援の仕組みが進歩したことなどがある。一方問題点として、法定雇用率達成企業の割合がほぼ50%にとどまっており、その理由のひとつとして法定雇用率が引き上げられつつあることを理解した上で、国や社会の要求に企業が追いついていないという読み取りができるかを問う。また、水増しの問題など社会的にも話題となった障がい者雇用の問題について、自分の考えを記述させることにより、理解力、表現力、知識などを問う。

令和3 年度特別入試（推薦入試 I）－理学療法学専攻・作業療法学専攻－

出題意図

「問題2」

著者は、「表情とは元来は外界との関係においてなされていた反射的な反応が根底にあって、意志的な反応が可能になってからは、特に快一不快の感情との関係が深くなってきたものと考えられる」と述べている。このことから、対人関係の構築には、意図的に表情を操作することの必要性を示している。その上で、視線における二律背反の性質に着目し、コミュニケーションの難しさを提示している。これらのことと読み取り「コミュニケーションにおける表情（視線）」の重要性について自分の経験を踏まえて記述させることで理解力、表現力、および知識を問う。なお、他者とのコミュニケーション能力を述べさせることで、医療職としての資質も問う。